



だより



R7.9.24 Vol.20

していいですか？

修学旅行。真穴っ子たち！公共の場におけるマナーも良く、とても良い態度で楽しく三日間を過ごすことができました。またこの便りでもその時の話題をちらほらお知らせしていきたいと思います。

3校合同での旅行でしたが、子供たちの言葉を聞いていて少し気になることが…。

「先生！あっち行っていいですか？」「先生！それは違うんじゃない？」

うちの学校の子が！というわけではなく、教師に対してそういう言葉を使う子がちらほら…。テレビやSNSの影響だと思うのですが、これは教師に使う言葉ではないと私は思っています。

冗談やくだけた場でのやりとりならいざ知らず、これが当たり前になるのはどうなのでしょうね。

最後は…

敬老会に参加した夜、役員の方たちの慰労会に「先生方も来ませんか？」と声をかけてもらいました。その席でのある地域の方との話です。

「校長先生！なんやかんや言うても最後は人とう関わっていけるか？やと思うんですよね。」そうおっしゃっていました。全く同感です。

教師として学力を高めてやることと同じくらい大切に育ててやりたいもの。思いやりです。私が子供の頃は偏差値教育、真っ只中です。人として大事なことも、もちろんその当時の先生たちから教えてもらっていましたが、序列化されることが当たり前でしたし、それが大きなウエイトを占めていた気がします。そうではないですよね。人とうどう関わるか。それが幸せへつながる道ではないでしょうか。

四方山話真穴 ver2. 其の二十(スローライフのすすめ)

スローライフ、いろいろな捉え方がありますが、「お金や効率ではなく、心のゆとりを大切にする」そんな意味合いもあります。先々週でしたでしょうか。4年生の授業に入ることがありました。子供たちと話をしていると、身の回りのことを良く知っている子とそこまでではない子がいることに気づきました。学習の文脈の中で、こんな話になりました。「大洲の肱川って知ってる？」「知りません。」「お隣の吉田町って分かる？」「分かりません。」「それがいい悪いの話ではなく、現代の生活の中で起こることなのかなと感じます。人間が移動のスピードを求めていった結果、世界(目的地)は本当に近くになりました。子供たちも車で移動することが当たり前になっています。ただ、移動スピードが速くなればなるほど、視界はどんどん狭くなります。例えばですが、肱川にかかっている橋を歩いてわたるとしましょう。おそらく一分以上かかると思います。大きな川の上を渡っているという実感も伴うでしょう。これが車なら、おそらく数秒から十数秒。その間、車の中でゲームをしたり、動画を見ていたりしたら、子供の意識の中で肱川はなかったことになります。道中の景色や出来事がなかったことになる。これはスピードを求めた結果の一つだと思います。空間が面になり線となって、しまいには点と点になってしまう。

子供の頃、父が運転する車に乗っていると、「雅人！道路の前の方に水たまりが見えるやろ？」「うん！」「ずっと見とってみ！」「うん！あ！なくなった！！なんで？？」夏の暑い日に見えるいわゆる逃げ水ですね。今も自分で運転していて逃げ水を見つけるとその会話を思い出します。どこのどの道で見た逃げ水かも覚えています。子供も多忙な毎日を送る昨今、スローライフとは絵に描いた餅なのかもしれません。が、大人の言葉がけ一つで子供の意識は広がります。目まぐるしく移り変わる世の中だからこそ、少し立ち止まって物事を見る大切さ、私たち大人が意識しておきたいですね。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思っています。